

■グループ会社ニュース

須山建設企画・施工

企画担当に聞いた『大河ドラマ館』見どころ！



3月18日にグランドオープンを迎えたご存じ「どうする家康」の大河ドラマ館。実は須山建設が公募型プロポーザル方式（企画提案）で受注した建物になります。今回は須山建設の企画担当者におすすめポイント等取材してきました。メジャーなスポットは観光ガイドにお任せし、視点を変えて楽しめる情報をお伝えします。これから行かれる方はよろしければご参考になさってください。

まず最初にこの建物のコンセプトをご紹介しますと【『出世の街浜松』を3つの言葉と9つの物語で紡ぐ】です。

3つの言葉とは「イノベーション（変革）」「サステナブル（持続性）」「うきうきワクワク」。**9つの物語**は①浜松城②裏門③堀④井戸⑤二の丸⑥引間城⑦東照宮⑧瓦⑨石垣の9つとなります。楕円の回廊を周遊しながらこの物語を楽しむという演出となっています。

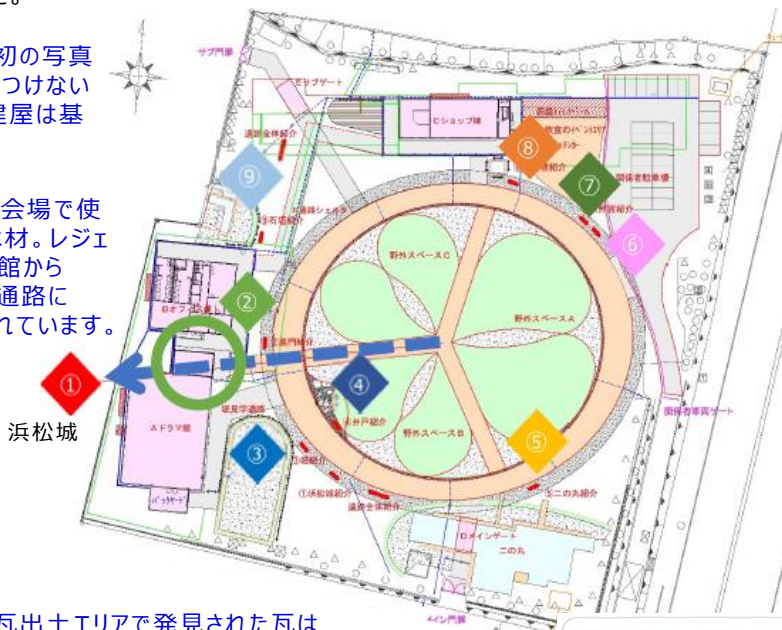
会場は上の写真の通り、天守とドラマ館（写真中央の黒い建物）入口と葵の御紋をかたどった広場の中心が一直線に結ばれています。その大河ドラマ館の入り口は本丸と二の丸をつなぐ裏門があった場所に設けられています。

二の丸跡地は上の写真左下の部分になりますが、一部の配置が再現されています。その二の丸はそこから現在の浜松市役所がある場所にかけて建築されていました。



⑨石垣の発掘当初の写真です。文化財を傷つけないために石垣展示建屋は基礎がありません。

東京オリンピックの会場で使用された浜松の木材。レジェンド材としてドラマ館からショップ棟をつなぐ通路に使われています。

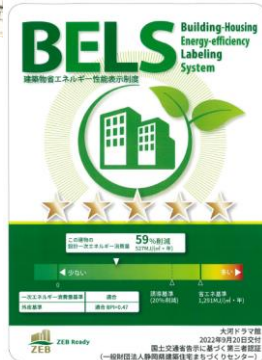


〈おすすめ撮影スポット〉



⑧瓦出土エリアで発見された瓦は太田氏（17世紀中頃～後半）と本庄松平氏（18世紀以降）の2種類で、両家の家紋をあしらった家紋瓦が見られます。

ドラマ館はSDGsにも配慮された建物となっています。須山建設が得意とするZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）建築で、ドラマ館で消費するエネルギーを基準値より50%以上削減するイノベーション＆サステナブルな設計となっています。



最後におすすめ撮影スポットのご紹介です。天守閣からドラマ館に向けてカメラを向けると三つ葉葵が現れるランドデザインとなっておりイチオシで、ドラマ館入口付近から天守閣に向けてのショットもおすすめとのことでした。前述のレジェンド材を使った通路もおしゃれな作りになっていますので、インスタ映え間違いはないかと・・・

当然ですが主役の大河ドラマ館内には衣装や関連グッズが多数展示されています。見どころいっぱいのドラマ館にぜひ足をお運びください。

(ZEB認証)



資産管理部 鈴木奮